

## 『NHK英語リスニングテスト』のタスク分析

ノートルダム清心女子短期大学 達川 奎三

### I. はじめに

現行の『中学校学習指導要領』では、「聞くこと」「話すこと」の指導を一層充実させるためにそれぞれを独立させ、それまでの「3領域」という考え方から「4領域」という扱いになった。また、高等学校では「オーラル・コミュニケーションA,B,C」という科目が3年目を迎え、音声を媒介としたコミュニケーション能力やそのために必要な態度を育成することを目指している。このような大きな流れは学習者や社会のニーズにも応えるものであり歓迎すべきことである。

本研究では、この内の「聞くこと」の指導に関わって、毎年7月に放送されている『NHK英語リスニングテスト』の3段階（初級、中級Ⅰ、中級Ⅱ）の講座に見られるリスニング・タスクの分析を試みる。それぞれのレベルにおいて聴取者に課せられるタスクの特徴を整理し、考察を加えることを通じて、リスニング教材を開発・加工する上での示唆を提示したいと思う。

### II. 『NHK英語リスニングテスト』について

#### 1. 本講座の概要

##### (1)リスニングテストの番組放送

『NHK英語リスニングテスト』は、初級、中級Ⅰ、中級Ⅱの3講座があり、毎年7月に夏の特集として放送されている。

初級	90年7月	(プレテストとして開始)
	91年3月	第1回としてスタート
	91年7月	第2回 ~以後毎年実施
中級Ⅰ	91年7月	第1回スタート ~以後毎年実施
中級Ⅱ	92年7月	第1回スタート ~以後毎年実施

##### (2)レベル

初級	基礎英語2レベル (以前は基礎英語修了レベル)
中級Ⅰ	基礎英語3レベル ( " 続基礎英語修了レベル)
中級Ⅱ	英会話入門レベル ( " 上級・基礎英語修了レベル)

##### (3)テスト方法

3レベルそれぞれに、月曜日から金曜日までのレッスンでリスニングの学習をしたあと、土曜日にテスト問題を放送し、解答用紙をNHK学園に送付し、採点をしてもらう。

(特に希望する学校については、教室にて集団でテストが受けられるように便宜も図られている。)

(4)テキストの発行部数 (96年度の場合)

初級	約 10 万部
中級Ⅰ	約 10 万部
中級Ⅱ	約 12 万部

(5)リスニングテスト採点希望者、及びその平均点 (95年度の場合)

	採点希望者	平均点
初級	約 16,700 名	87 点
中級Ⅰ	約 19,300 名	70 点
中級Ⅱ	約 16,900 名	69 点

2. ラジオ番組としてのリスニングテスト

(1)「ラジオを聞く」という活動について

一般的には「相互作用とビジュアル・サポートがない」という条件下で「聞く」という活動を行っている。(Rixon, 1986: 2)

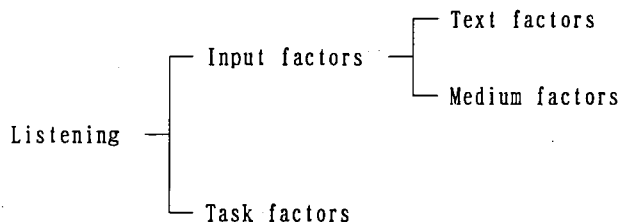
(2)ラジオ講座としての特徴・制限

- ①一方通行の教授にならざるを得ない。(相互作用が望めない)
- ②多くの聴取者を対象としている。(一対一でなく、一対多である)
- ③一応のレベル付けはなされているが、幅広い聴取者が予想される。
- ④リスニングテストへの参加を前提としているので、その活動のほとんどが多肢選択問題となっている。(open ではなく、closed な問いにならざるを得ない)
- ⑤聴取者がテキストを持っていることを前提としており、本講座ではビジュアルを利用できる。
- ⑥正しく聞き取れたかどうかを確認する手法として、performing action(s) や drawing a picture などの手法は用いにくい。

Ⅲ. リスニング・タスクの設計について

1. タスクの負荷調整を考える視点

タスクの負荷調整に影響を与えるものとして、次のような要因が考えられる。



【図1】リスニング・タスクの負荷調整に関わる要因

本研究ではこの内のタスクの要因に注目してみる。

2. タスク・タイプの代表的分類例

タスクの分類法としては、Richards (1983: 235)の8つの分類がよく知られている。

- |                                |                |
|--------------------------------|----------------|
| (1) Matching or distinguishing | (5) Extending  |
| (2) Transferring               | (6) Condensing |
| (3) Transcribing               | (7) Answering  |
| (4) Scanning                   | (8) Predicting |

### 3. タスクの段階付け

リスニング用教材に登場する代表的なタスクをより具体的に示し、分析の作業がし易いように段階付けをしてみる。その際諸学者の説を参考にし、以下の4点を判断の基準とする。(達川、1995)

(1) 反応をどのような手法で求めるか。

① verbal か、または non-verbal か。(→【表1】の(a)の項)

② 選択肢が与えられているかどうか。(→【表1】の(b)の項)

(2) 理解が partial でよいか、 global でないといけないか。(→【表1】の(c)の項)

(3) 反応が mechanical でよいか、 meaningful, communicative なものを必要とするか。

(→【表1】の(d)の項)

これらの基準をもとに、「聴解タスク」の負荷の軽重をまとめてみる。

【表1】「聴解タスク」の段階付け

	(a)	(b)	(c)	(d)	負荷集計
Performing action	-		-	-	-3
Identifying	-	-		-	-3
Finding discrepancies	-	-		-	-3
Drawing a picture	-			-	-2
Partial Dictation			-	-	-2
Filling in the grid			-	-	-2
Following a map	-			-	-2
Multiple choice (/ T or F)		-	-		-2
Verbal response			-		-1
Full Dictation			(-)		0
Sequencing	-	(-)	+		0
Main idea comprehension			+		1
Predicting or Inferencing		+	+	+	3
Full comprehension to summarize	+	+	+	+	4
Evaluating or Problem-solving	+	+	+	+	4

- 負荷が軽い  
+ 負荷が重い

### IV. タスクの分析

上記【表1】のタスク分類をもとにし、ビジュアル・サポートの有無にも注目しながら、93～96年度の4年間分について分析をした。その結果を次ページの【表2】として示してある。

↑ Visuals    ビジュアル・サポートのあるもの  
 0-Visuals    ビジュアル・サポートのないもの

【表2】『NHKリスニングテスト』のタスク分析

初級	93年度		94年度		95年度		96年度		四年間		順位
	↑ Visuals	合計93	↑ Visuals	合計94	↑ Visuals	合計95	↑ Visuals	合計96	合計	%	
identify	10		10	20	19		16		65	40.6	(2)
drawing			0		0		2		2	1.3	
p. dic.			0		0		0		0	0.0	
grid			0		0		0		0	0.0	
map			0		1		2		3	1.9	
su. ch.	19	7	26	10	17	8	18	5	76	47.5	(1)
f. dic.			0		0		0		0	0.0	
su. i. c.			0		0		0		0	0.0	
pred/inf	1	2	3	2	2	1	1	3	9	5.6	(3)
evlu/p. s.			1	1	1	1	1	2	5	3.1	
	30	10	40	30	30	10	40	10	160		

中級I	93年度		94年度		95年度		96年度		四年間		順位
	↑ Visuals	合計93	↑ Visuals	合計94	↑ Visuals	合計95	↑ Visuals	合計96	合計	%	
identify	10		7		8		6		31	19.4	(2)
p. dic.			0		0		0		0	0.0	
grid			0		0		0		0	0.0	
map			0	1	1		1		2	1.3	
su. ch.	21		20	20	17	17	10	6	74	46.3	(1)
f. dic.			0		0		0		0	0.0	
su. i. c.	5		5		0		0		5	3.1	
pred/inf	3		3	7	8	10	10	10	31	19.4	(2)
evlu/p. s.	1		1	3	4	3	4	4	17	10.6	
	40	0	40	30	40	30	40	20	160		

中級II	93年度		94年度		95年度		96年度		四年間		順位
	↑ Visuals	合計93	↑ Visuals	合計94	↑ Visuals	合計95	↑ Visuals	合計96	合計	%	
identify	5		5	5	6		4		20	13.3	
p. dic.			0		0		0		0	0.0	
grid			0		7		12		19	12.7	
map			0		0		1		1	0.7	
su. ch.	10	6	16	11	11	12	12	8	48	32.0	(1)
f. dic.			0		0		0		0	0.0	
su. i. c.			0		0	6	6	2	8	5.3	
pred/inf	7		7	12	12	0	1	10	30	20.0	(2)
evlu/p. s.	5		7	7	7	2	3	2	24	16.0	(3)
	20	20	40	30	35	20	35	20	150		

## V. 考察

### 1. 各講座について

#### (1) 初級

- ① ビジュアルに基づいて identify(40.6%) させたり、multiple choice(47.5%) をさせるタスクが約9割を占め、そのテキストのタイプは description のものが圧倒的に多い。
- ② 話者Aに対する適切な応答を求めるタスクでは、その問いかけは1～2文と比較的短くなっている。
- ③ ビジュアルのサポートのないものについては、日本語で問いや選択肢を与えてある。

#### (2) 中級 I

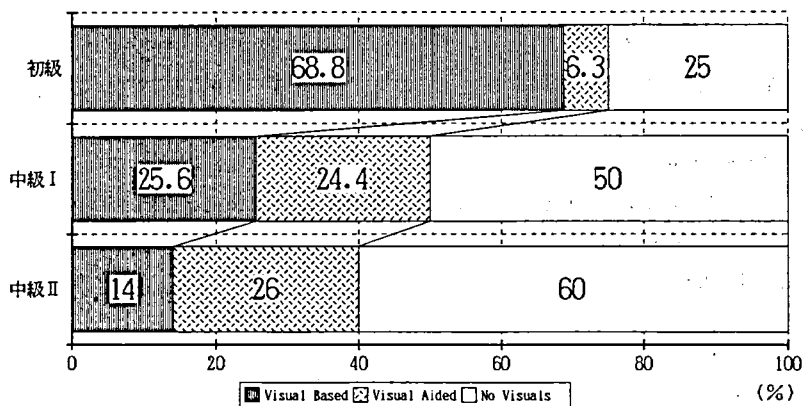
- ① ビジュアルに基づいた identifying などのタスクが少なくなっている(19.4%)が、講座の特徴による制限もあり multiple choice はいぜん半数近く(46.3%)を占めている。
- ② prediction/inference、evaluating/problem-solving などの global な理解を要求するタスクが増えている。
- ③ 話者Aに対する適切な応答を求めるタスクでは、初級と同様に1～2文の問いかけに対する応答を求めるもの (adjacency pairを問うもの) がほとんどであった。しかし、96年度は話者A-B-Aの会話のやりとり (recurrenceの起こる会話) の後で話者Bの応答を求めており、談話のよりglobalな理解を求めようとしている。

#### (3) 中級 II

- ① local な理解でも対応できる multiple choice のタスクが依然3割強あるが、prediction/inference、evaluating/problem-solvingを合わせると36%まで増えている。(特に、96年度は質問文の中に imply, assume, infer, suggest, mean, probably などの語が実際に使われている)
- ② 選択肢の英文をすばやく読むことを要求するタスクが多い。
- ③ メモをとりながら聞くという note-taking のスキル獲得につなげようとする姿勢が一貫してある。(とりわけ、テスト前の5日間のレッスンの中で note-taking のスキル獲得に向けて継続的な指導がなされている)

### 2. 全体を通して

- (1) ビジュアルを用いてのタスクが初級レベルほど多い。



【図2】 ビジュアルの与え方について

(2)問題文・質問文をどのように与えるかについては、次のような基本的な姿勢がうかがえる。

①93年度は、問題文と質問文の両方を二度ずつ聞かせる手法をとっているが、94年度からは一度だけ聞かせる問題が出てきており、とりわけ中級Ⅱにおいてはその傾向が顕著である。

②問題文と質問文のうちのどちらかを、またはその両方を一度だけ聞かせる場合には、次のような手法で聞き手にかかる負担を軽減している。

(a)状況（あるいはテキストのジャンル）を予め日本語などで与えてある。

(b)聞き取るべきポイントを予め提示してある。

(c)こなすべきタスクを前もって示してある。（質問文の省略）

（例）適切な応答を選ばせる。

選択肢を route 1～4 などと決めてある。

(d)選択肢の英文を極力短めにしている。または、同じような文型などを用いて選択肢を作っている。

(3)monologue と dialogue をバランス良く与えてある。【Appendix A参照】

(4)初級に用いられているテキストのタイプは static な description がほとんどであるが、中級Ⅱでは dynamicな storytelling や abstractな opinion-expressing が多くなっている。

### 3. その他

(1)色々なタイプの英語を聞かせようとする配慮が見られる。（96年度初級でBritish English の採用）

(2)93年度初級 D.7.は the stereo を the machine と言い変えてあり、いわゆる変奏(variation)の手法が見られる。

(3)放送による多肢選択としては利用しにくいですが、各レッスンでは dictation, T / F, drawing などの手法を取り入れようとしている。【Appendix B参照】

## VI. リスニング教材の開発・加工のための示唆

上記 V.「考察」を述べる中で、リスニング教材の開発・加工のための示唆については色々と触れてきたので、ここでは以下の2点について強調しておきたい。

1. 表面的な情報を聞き取るだけでなく、言外の意味を推論させるタスクの開発（ただし input の負担を重くしないように気をつける）

（例）96年度初級-C.7.

A: What time does the train leave?

B: At seven ten.

A: We'd better hurry, then. How far is it to the station?

B: About two kilometers.

A: Let's run.

（問い）2人は電車に間に合うでしょうか。

1. 十分間に合う

3. もう電車は出てしまった

2. あまり時間がない

4. 電車は来なくなった

Aの2、3番目の発話から、「あまり時間がない」ということを推論させる。

2. note-taking の系統的な指導 (本講座では以下の点についての配慮が見られた)

- (1) メモを取らせるためのスペースを設ける。
- (2) メモは「日本語、英語、絵、記号など自分のわかる印であれば何でも良い」ことを理解させる。
- (3) note-taking の例として、聞き取らせたい key word(s) などを示す。
- (4) note-taking のスキルが求められるタスクを与える。

VII. 本講座の一層の充実のために

本講座のより一層の充実を願い、筆者なりの提言を行ってみたい。

1. authenticity の高いビジュアルを用いたタスクの開発をする。

- (1) 初級レベル…… I Dカード、会員カードを見て質問に答える、など  
(scanning の作業に利用し易い)
- (2) 中級 I、II…… グラフや図表を見て質問に答える、など  
(ビジュアルを生かし、dynamic なテキスト (例えば比較や時制という概念を取り扱った文章) を使用できる。この4年間の講座ではグラフや図表を用いたタスクはほとんどなかった。)

2. prediction を促進させるタスクを増やす。

Predict what the speaker will say. (\*の部分を予測させる)

(1) monologue を聞いて

(例) I was very hungry ... so I walked into the kitchen and  
opened the \_\_\_\_\_ \*

(選択肢)

1. window      2. refrigerator      3. mouth      4. envelope

(Adapted from Rost and Uruno 1995: 51)

(2) dialogue (recurrence の起こる談話) を聞いて

(例) 96年度中級 I - B. 5.

(電話で)

A: Hello, may I speak to Mr. Wilson?

B: I'm sorry, he's on the other phone now. Would you like to hold?

A: Yes, I would.

B: May I tell him who's calling?

A: \_\_\_\_\_ \*

(選択肢)

1. Yes, you may.
2. No, thank you.
3. Yea, please.
4. My name is Ann Kennedy.

私たちは母国語であれ外国語であれ、相手が次に何を言おうとしているのかを常に予測

しながら「聞く」という活動を行っており、このことをタスク作りにもぜひ生かしたい。

### 3. 問題の配列を再考する。

易しい問題から難しい問題へと配列した方が良いのではないだろうか。(96年度中級Ⅱは、後半の scanning で対応できる問題C, D, Eに比べて、最初の問題Aの方が難しいのではなかろうか。)

## Ⅷ. まとめ

『NHKリスニングテスト』の3講座について色々な角度から分析を試みた。各講座ともに一週間という短期間の、またラジオというメディアを利用してのテストであるために様々な制約はあるが、リスニング教材の開発・加工に関わって実に多くの示唆を得ることができる。特に3レベルの講座を比較することによって、リスニング教材の負荷調整をするための知見を得ることができるのではなかろうか。また、最終日のテストに至るまでの各5レッスンの講座では、望ましいリスニング能力を身につけるための助言や指導もなされており、我々教師にとっても学ぶ点の多い番組であると感じる。

本研究の資料収集にあたっては、NHK学園の清水直人氏にひとかたならぬ御協力をいただいた。ここに心よりの謝意を表したい。

### 【参考文献】

- Brindley, G. 1988. *Factors Affecting Task Complexity*. In Nunan (1988).
- Lund, R.J. 1990. "A Taxonomy for Teaching Second Language Listening." *Foreign Language Annals* 23(2), 105-15.
- McDonough, J. and C. Shaw. 1993. *Materials and Methods in ELT*. Oxford: Blackwell.
- Nunan, D. 1988. *The Learner-Centred Curriculum*. Cambridge: Cambridge University Press.
- Richards, J. C. 1983. "Listening Comprehension: Approach, Design, Procedure." *TESOL Quarterly* 17(2), 219-40.
- Rixon, S. 1986. *Developing Listening Skills*. London: Macmillan.
- Rost, M. and M. Uruno. 1995. *Strategies in Listening* (Second edition). New York: Lingual House.
- アレン 玉井光江、見上 晃、早坂 信(1996)「新しいNHK『基礎英語』の世界」『英語教育』4月号 30-35.
- 池浦 貞彦(1996)「リスニングでは何を、どう評価するか」『英語教育』7月号 17-19.
- 神保 尚武、酒井 志延(編)(1995)『「英語教育」別冊 オーラル・コミュニケーションのためのデータ・バンク』研究社.
- 達川 奎三(1995)「リスニング・タスクの設計」『中国地区英語教育学会紀要』No.25, 197-210.
- 田中 正道(1991)『コミュニケーション志向の英語教材開発マニュアル』開隆堂.
- \_\_\_\_\_.(1994)「オーラル・コミュニケーションBにふさわしい教材と指導」『英語教育』2月号 11-13.



【Appendix A】

monologue と dialogue のバランス

	monologue	dialogue	total
初級93	23	17	40
初級94	20	20	40
初級95	20	20	40
初級96	26	14	40
初級 total	89	71	160

55.6% 44.4%

中級 I 93	30	10	40
中級 I 94	17	23	40
中級 I 95	14	26	40
中級 I 96	9	31	40
中級 I total	70	90	160

43.8% 56.3%

中級 II 93	15	25	40
中級 II 94	11	24	35
中級 II 95	10	25	35
中級 II 96	5	35	40
中級 II total	41	109	150

27.3% 72.7%

総計	200	270	470
割合 (%)	42.6%	57.4%	

【Appendix B】

月曜～金曜のレッスンにおけるタスク

perception  
のタスクを  
除く比率

	初級		中級 I		中級 II		3 講座合計 (二年間)
	95年	96年	95年	96年	95年	96年	
perceptl.	147	115	23	32	32	60	409
idntify	28	41	9	13			91
drawing		14		6			20
discrepancy		8					8
p. dic.	17	15	24	44		22	122
grid	3	3				6	12
map		6		2	1		9
m. ch.	46	21	28	27	28	16	166
T or F						26	26
verbal res.		5					5
f. dic			9	2			11
m. i. c.					1	3	4
pred/inf	1		3	19	9	27	59
evlu/p. s.				9	2	3	14

total	242	228	96	154	73	163	956
-------	-----	-----	----	-----	----	-----	-----